

2/14

外部評価の成果を  
報告

平成24年度行政評価外部評価実施報告書を提出



**大** 村市行政評価外部評価委員会から、平成24年度の外部評価の実施報告書が提出されました。同委員会では、平成24年度の市の新規主要事業を中心に、10事業について市民の視点に基づく評価が行われ、それぞれ「他の見直し」「拡充」「現状維持」との評価結果が示されました。この結果を受け、担当課でも問題意識の提起や事業の改善改革を促す契機になったと考えています。今後も、市民と協働した市政を進める中核的な取り組みとして、外部評価制度を推進していきます。

2/19

中村知事が市内各所で意見交換

青空知事室in大村



**中** 村法道県知事が県内各地域を訪れ、県民の声を直接聴き、地域の事情などを把握する「青空知事室」が大村市で開催されました。この青空知事室は、地域の声を県政に反映させようと平成22年度から始められたものです。中村知事は、九州新幹線「新大村駅（仮称）」建設予定地をはじめ、市内の民間企業、商業施設、畜産農家などを視察され、県と地域の協力によるまちづくりなどについて、地域の活性化などに取り組み皆さんと、活発な意見交換を行いました。

3/8

生活道路の安全・安心  
対策を

ゾーン30実施セレモニー・街頭キャンペーン



**一** 城小学校周辺区域が「ゾーン30」区域に定められ、松本市長をはじめ、警察や学校関係者などが参加し、同小学校でセレモニーが行われました。ゾーン30とは、生活道路の交通安全対策のため、対象区域内の最高速度を30kmに規制し、路側帯のカラー化や拡幅などの整備を行うものです。県内では、5年間で30区域での導入が予定されていますが、三城小学校周辺区域が県内で第1号として実施されました。実施に併せて、通行車両のドライバーに対しチラシを配布し、ゾーン30の周知と安全運転を呼びかけました。



今こそ桜のまち  
大村を



vol.20

市長室から見える大村公園の桜、「開花は、まだかなあ」と思う、うららかな春がやってきました。桜といえば、国土交通省の「ちやくちやくプロジェクト」で与崎まで拡幅された国道34号沿いに「天の川（あまのがわ）」という桜の花が咲きます。国土交通省の九州整備局から、「桜の木を植えると木の枝が車道まではみ出して管理が難しい。他の木にしてくれないか」という話がありました。そのことを聞いた私はただちに福岡の整備局へ出向き、「桜は大村市を象徴する花です。なんとかならないでしょうか。桜の大村公園にいたる道です。ぜひ桜を植えてください」と当時局長だった岡本氏にお願いしました。今ではまだ細い木ですが、白い花びらの桜がたわに咲いてくれます。大村公園は平成2年に、九州・沖縄に10か所しかない日本さくら名所百選の地にも選ばれました。さらに今年で21回目を迎える「全国さくらサミット」に本市も参加しています。17回目は平成19年に大村市で開催しました。桜によるまちづくりを推進しようとするサミット会議です。地域おこしの環として、鈴田地区では住民がカンパしあい、みんなの手で植える「鈴田千本桜」事業に取り組んでおられます。平成20年2月に鈴田運動広場の裏山に私が植樹したのも少しは大きくなつてくれたかなと気になっていました。そして、桜の花びらのように愛くるしい「おむらんちゃん」が誕生して1年が経ちました。おむらんちゃんは桜の花の妖精ともいわれています。昨年の「全国ゆるキャラグランプリ」で、おむらんちゃんは865体中、94位でした。これからもがんばつてくれると期待しています。なお4月から、「おむらんちゃんのぬいぐるみ」を、新生児にプレゼントする事業を予定しています。現在、市の観光客は年間約100万人です。桜を活かした観光推進のため、市民活動として「さくら日本」友の会も動き出そうとしています。新幹線開業までに、市民「丸」となって観光客数200万人を目指そうではありませんか。